

失業なき労働移動の

かけはし

11

KAKEHASHI
NOVEMBER
2017

「特集」 福島

【巻頭企画】

現代版番頭「こわい人」の登場が待たれる!!

【巻頭言】

白虎隊の会 飯沼一元さん



新たな飛躍

出向・移籍で得た活躍の場

二十年間続けた仕事を離れたことによる気づき

鈴木さんは大学卒業後、バスケットボールの国民体育大会強化チームの選手として、大手総合電機メーカーの福島工場に入社。大会後も、同工場の生産管理部門で生産計画を立案する仕事に励み、日々は社会人チームでバスケットボールを楽しむ、充実した日々を送っていた。

転機が訪れたのは、入社から約二十年後のこと。勤務先の工場のある子会社へ異動することに。単身赴任をし、これまでと百八十度異なる業務に従事した。しかし、その後、鈴木さんは会社から紹介された産業雇用安定センターに移籍の相談を行った。「生産管理部門を離れ、あらためて感じたのです。自分は工場のみならず一体となっ

て製品をつくりあげていく仕事が好きなのだ。だから、もう一度福島県に戻り、工場業務に携わりたい。家族と一緒に暮らし、バスケットボールも続けたい。そんな気持ちを担当参与さんに伝えました」

前職と立場の異なる役割を経験することによって抱いた、周りの人への感謝と尊敬の念

アサヒ電子株式会社 資材課 購買グループ 主任

鈴木 渉 さん



すずき わたる◎昭和46年、千葉県生まれ。東京の大学を卒業後、大手総合電機メーカーに就職。福島県の工場で、約20年間にわたり生産管理業務に従事。平成27年移籍。中学時代に始めたバスケットボールは今も続けている。

でもトップクラスの超高密度実装技術をベースに、最終完成品までの組立・サービス、最先端の商品や基板ユニットの開発、生産、各種修理、解析業務などを行う。最近では、医療関係など新しい分野の製品づくりも手掛けている。

資材課の池田良司課長は、鈴木さんを採用した背景について、「クライアントが増えてきて、購買部門の強化を必要としていました。鈴木さんは生産管理経験が豊富で、ご自身のキャリアに自信を持っている。即戦力として活躍してくれると感じました」と語る。

現在、鈴木さんは購買部門で生産に必要な部材の選定や調達、価格交渉などを担当している。鈴木さんは購買業務に対して、ある特別な想いを抱いていた。「前職では、ずっと購買担当の方に生産計画の遂行を支えてもらっていまさら。それにも関わらず、『もつと

納期を早められないのか』など、無茶なことばかり求めていたので。だから、この機会に逆の立場を経験してみようと思いました」

実際に始めてみると、鈴木さんが二十年間見えていなかった、購買部門の現実が見えてきたという。「生産計画を遂行するために部材を手配することが、いかに難しいことなのかよくわかりました。それを知らずに、一方的な要求ばかりしていた過去の自分が悔やまれますが、今気づけたことに感謝とやりがいを感じています」

移籍により、視野を大きく広げる鈴木さんの働きぶりを見てきた池田課長は、「購買業務は、百社ほどの部品購入先とやり取りしなくてはならない大変な仕事。鈴木さんは、持ち前の管理力を発揮し、縁の下の力持ちとして活躍してくれています。今後は、前職の経験も活かしながら会社をより良い方

向へ導いていってほしい」と期待。鈴木さんは、「自分が視野を広げられたのは、池田課長をはじめ会社の皆さんがいつも広い心で受け入れてくださるから。ひとりよがりにならず、他部門の状況をよく考えたり、部品購入先の人の話をよく聴いたりできるようにになりました。仕事以外の場面、例えば家庭でも以前より妻に感謝するようになったと思います。今後、自分をより成長させ、仕事を通して会社に恩返ししていきたいです」と語る。

最後に鈴木さんから出向・移籍をされる方へアドバイスを伺った。「職場が変われば、それまでとは勝手の違うことが多少なりともあると思います。そんなとき、偏った考え方を取り払い、できる限り視野を広げ、仕事の全体像を捉えながら物事を考えてみてください。その経験は、きっと自身の成長にもつながるはずですよ」

移籍先となったのは、一九八四年にVTR基板組立工場として創業したアサヒ電子株式会社。業界